



「対話」

教頭 山崎 誠

夏に刊行予定の『島根県の合戦』（いき出版）で執筆を担当したテーマ「隠岐騒動」を通じて、あらためて「対話」をすることの意味を考えている。

隠岐騒動は、松江藩の預かり地となっていた幕領である隠岐國が、明治維新を期に、島民たちの決起によって松江藩の郡代を島から退去させ、自治政府を樹立した出来事である。隠岐騒動が、『レ・ミゼラブル』で描かれた時代の出来事である、世界史的に有名な革命的自治政府を樹立したパリ・コミュンよりも早いことはあまり知られていない。隠岐騒動では、島民が追放する郡代を乗せた船に餞別として米や酒を積んだと伝わっている。革命的な行動であるのに郡代の首を斬らず追放したことと合わせ、隠岐古典相撲に流れる敗者にも敬意を払うという精神を垣間見ることができる。

コミュニケーションには、「対話による合意形成」という意味もある。世界に先駆けた自治政府が樹立できた要因は、誰かに煽動されたり、暴発したのではなく、隠岐國を良くしたいという強い思いのもと、納得いくまで島民同士の対話がおこなわれ、その上で成された合意のもとで統一した行動をとったこと、さらに相手（郡代）ともねばり強い交渉（対話）をおこなったことにあると考えている。

「グローバル企業のような多様な人材がいる組織では意思決定が逆に早い。それはバックボーンが異なる人が集う場では、数字・ファクト・ロジックで議論するしかないのだからで、忖度などない合理的で素早い意思決定がなされるからである。」とライフネット生命創業者の出口治明氏は、あるインタビューで話しておられた。これからのグローバル社会においては、合意形成を導くためになされる対話の中で、エビデンスが重要視されていくことは確かだと思うが、対話が人と人との会話である限り、そこには感情や思いというものがあるし、それを忘れてはAIと同じになってしまうことを忘れてはならない。

笑顔は、人間にとって最初に獲得するコミュニケーションである。それぞれの心の中にある「私、よくがんばった。」「私ってすてたもんじゃない。」という“今の自分に対する素直な満足感”が笑顔の源ともなっている。そのためには、エビデンスに基づく会話をしながらも、自分自身が尊重される感覚が大事であるし、だからこそ相手のことを尊重し認め合うことも大事である。

しかし、対話の中では、前向きでない言葉が出ることは当然ある。相談においては、「悩みを話すことは、悩みを離すこと、手放すこと」とも考えるそうだが、対話においては、結論を急ぎ過ぎず、またすべてを論理的に合理的に解決していこうとするのではなく、宿題を残すくらいの余地があることが大事であると考えている。それが語り合うことであり、これからのグローバル社会において捨てるはいけない部分ではないだろうか。つまり、相互で尊重し合うことに加え、余裕を持つことが重要と考えている。

「主体的・対話的で深い学び」が、次の学習指導要領の中でうたわれている。松江東高校でも、アクティブラーニング型の授業が少しずつ浸透しつつある。そんな今だからこそ、対話の意味を自分なりにしっかりと考えるべき時かもしれない。



「隠岐騒動の碑」

県総体・インターハイ

ボート部

～インターハイ出場チームによる、県総体報告～

今年の男子チームは、新人戦で松江高専や松江北に敗れており、全国選抜への出場を逃してしまいました。悔しい思いを経験しましたが、そこから意識が変わり、自分たちで黙々とトレーニングに取り組む姿をたくさん見るようになりました。自分たちで考え、追い込むことができるチームへと成長しました。県総体では、4×十（蛇手つきクオドルプル）は最後までリズムを崩すことなく大きく強く漕ぐことができ、優勝することができました。2×（ダブルスカル）はあと少しという所まで追い詰めることができましたが、残念ながら2位となりました。女子チームは3年生がしっかり牽引し、2年生を大きく成長させました。4×十はスタートから危なげないレースを行い、優勝することができました。2×は休みの日でも2人でトレーニングに励むなど、努力している姿を見ました。県総体では敗れてしまいましたが、最後まで力を出し切るベストレースができました。

インターハイへは男女4×十が出場します。チーム東高の誇りと部員達の想いを胸に全国で存分に力を発揮してほしいです。

（ボート部顧問 佐藤秀人）



アーチェリー部

6月2日（土）本校を会場に県総体が行われました。

本校からは、女子団体・個人、男子団体・個人に参加しました。

今年は2年生の成長が大きく、ほとんどの選手が自己ベストを更新することができました。来年はさらにレベルの高い試合が期待されます。結果、インターハイには、女子団体・男子個人に出場権が与えられました。

先日行われた中国大会では、惜しくも予選通過を逃しましたが、個々に課題をみつけ、日々練習に打ち込んでいます。これからもチーム内で切磋琢磨し、全国で勝ち上がれるチームを目指して頑張ります。

応援よろしくをお願いします。

（アーチェリー部顧問 柏木哲也）



書道部

全国大会出場!

今年是全国から過去最大116校が予選に参加しました。本校書道部は激戦区の中国予選を16校中2位で通過し、2年ぶり2度目の本選出場を決めました。本選は7月29日に愛媛県で開催され、全国予選を勝ち抜いた20校が出場します。

特に1年次に全国の舞台上で活躍する先輩たちを羨望のまなざしで見っていた現3年生にとって、本選出場が決まった際の感激はひとしおでした。予選のDVD出品に至るまでの過程も順風満帆ではありませんでした。何度も書き損じたり、紙が破損したりといった失敗が続き、いよいよ紙も時間も尽きようとしていました。

「これが最後の一枚」と挑んだ渾身の作品、入魂の演技が見事努力の結晶となって表れ、予選突破へとつながりました。本選でも笑顔で最高の演技ができるように頑張ります!

なお、部長の三好亜美さん(34R)の個人作品は、8月に長野県で開催される全国高等学校総合文化祭への参加が決定しています。

(書道部顧問 緒方 孝)



文化創造部 (放送班)

NHK杯全国高校放送コンテスト(通称「Nコン」)の出場権をかけた島根県大会が、6月15日に行われました。

コンテストでは大きく分けて「読み」と「番組」の2部門に分かれます。「読み」はさらに「アナウンス部門」と「朗読部門」に分かれます。「アナウンス部門」は本校の校内放送という設定で、学校内外の話題などを自分で原稿を作って読みます。

「朗読部門」は課題図書の一部を自分で抽出して読みます。原稿の内容や抽出箇所の適切さ、また、発声やアクセントなど多くの審査基準があります。「番組部門」は自分たちで制作したドキュメンタリーやドラマで競います。

今回東高は「アナウンス部門」1名「朗読部門」2名、「番組部門」2作品が、県予選を通過し、7月23日から東京で行われる全国大会に出場することになりました。部員どうしが互いに切磋琢磨し、一丸となって戦ってきた成果だと思えます。東高のモットー「自立」を体現する生徒たちの活躍をご期待ください。

(文化創造部顧問 椋 和香)

JRC部

昨年度の島根県高等学校青少年赤十字メンバー秋季協議会で、「地域の方々との交流 Part 5 と防災～地域の方々を守るために～」と題して、本校JRC部が継続して取り組んでいる活動について研究発表しました。内容は、近隣の幼稚園訪問、年1回の美保関訪問、学園祭でのかき氷販売(収益金は全額各種義援金に寄付)、防災についてでした。その研究発表で、優秀賞をいただき、8月8日～10日に長野県で行われる第42回全国高等学校総合文化祭ボランティア部門に参加することになりました。全国総文祭では、様々な県における高校生の取り組みを発表し合ったり、フィールドワークをしたりして、互いに切磋琢磨しつつ、今後の活動に生かせるようにしっかり学んでいきます。



(JRC顧問 竹田育子)

←〈学園祭でのかき氷販売の様子〉

芸術鑑賞会

本校の芸術鑑賞会は、年ごとに音楽鑑賞→演劇鑑賞→音楽鑑賞→演劇鑑賞→…の繰り返しを基本としています。本年度は、sakura projectさんによる「和洋コラボレーションによるアンサンブル演奏」を楽しみました。今回の演奏メンバーは、喜羽美帆さん(箏)、大平光美さん(十七絃)、安村唯さん(フルート)、入山ひとみさん(バイオリン)、阿部梓穂さん(パーカッション)の5名で、まさに「和洋コラボ」の楽器編成。NHK(Eテレ)「にっぽんの芸能・スペシャルコンサート」出演、台湾公演、在韩国日本大使館主催の釜山・順天JAPAN WEEKコンサート出演など、すでに国内外で幅広くご活躍とのことです。

当日は、オリジナル曲はもちろん、ポップスや日本の伝統音楽、ディズニー映画、アルゼンチンタンゴにいたるまで、情熱的なもの、心に染み入るやさしいものを織り交ぜた変化に富む内容でした。生徒、教員ともその演奏を十分に楽しむことができました。途中のアトラクションでは箏と十七絃の体験演奏もあり、男子3名、女子2名がステージ上で一生懸命チャレンジしてくれました。無事に演奏し終えた彼らには惜しめない拍手が送られ、ほほえましい一コマとなりました。

次年度の芸術鑑賞会については内容未定ですが、すでに2019年6月11日(火)、島根県民会館を予約しております。保護者の皆様もご都合が合いましたら是非おでかけください。お待ちしております！

行事予定

8月

- 17日 全統模試(1、2年)
(3年～18日)
- 20日 始業式
- 30日 東雲祭(文化祭)
- 31日 東雲祭(文化祭)

9月

- 1日 東雲祭(体育祭)
- 4日 中期講座(~11月19日)
- 5日 ETC④
- 7日 全統模試(3年～8日)
- 8日 土曜講座③
スタサポ(1年)
- 14日 進研模試(3年～15日)
- 20日 試験発表
- 27日 中間試験(~10月2日)
- 28日 進路検討会②

10月

- 1日 進路検討会②
- 4日 後期生徒会選挙公示
- 6日 駿台模試(1、2年)
- 10日 東京研修(2年～12日)
- 11日 校内実テ(1年)
- 12日 進研模試(3年～13日)
- 17日 ETC⑤
- 19日 全統模試(3年～20日)
- 20日 土曜講座④
- 22日 全統模試(3年～24日)
3年保護者面談(~24日)
- 25日 立会演説会・生徒会長選挙

充実した行事がいっぱい！！

【お知らせ】電話お問い合わせ時間帯の変更

平成30年度より、教職員の働き方改革の一環として、学校代表の電話番号(0852-27-3700)へのお問い合わせ可能時間帯を、教職員の勤務時間内(8:20~17:05)を含め、原則として次のとおりとさせていただきます。

月曜日~金曜日 7:30~18:30

上記以外の時間帯は留守番電話対応とさせていただきます。みなさまのご理解ご協力のほどをお願いいたします。

島根県立松江東高等学校

〒690-0823 島根県松江市西川津町510番地
TEL: 0852-27-3700(代表) FAX: 0852-27-3703
HPアドレス <http://www.matsuehigashi.ed.jp/>

学校だより「EAST NEWS」(カラー版)はホームページにも掲載しています。バックナンバーもありますので、ぜひご覧ください!!

